

平成24年度事業活動報告（委員会活動状況）

1. 「日本鋼製軽量ドア協議会」ホームページ内容の拡充

玄関ドアのトラブル事例（換気扇が起因する音鳴り、開放力加重不良、熱反りステンレスの錆、虫の侵入）を未然に防ぐため、『ドアの豆知識』という資料を技術委員会にて作成し、一般向けHPに新規に掲載しました。

また、出荷統計資料としては、会員企業専用ページに、マンションドア・ビル用ドア、マンション用CPドアの3項目に分けて出荷推移グラフを作成し、掲載しました。

2. 長期優良住宅に対応する商品仕様の検討

住宅の長寿命化に関して、現状は、改修工法により対処するしか方法がない。一部デベロッパーでは、玄関ドアの納まるALCパネルごと取替える工法等も展開されているが、商品的には建具メーカーとしては新規性がない。

玄関ドアメーカーとしては、将来的に改修工法（カバー工法）に取って代わることで視野に入れて、当面は『長期優良住宅』向け玄関ドアとしての基準仕様の検討を行ってきました。企画書・図面等の案ができた段階で、BL化に向け提案する方向で技術委員会で検討を進めています。

3. ドアの耐用年数ガイドライン作成のための検討

昨年、日本ロック工業会より錠前の耐用年数ガイドラインが発行され、（一社）日本サッシ協会でも交換可能部品の耐用年数ガイドラインの検討を行っている。鋼軽協としても、関係業界の動きも調査し、連携を図りながら検討を進めています。

4. 環境配慮に関する活動

平成25年版公共建築標準仕様書では、JIS K 5629 鉛酸カルシウムさび止め塗料および鋼板のクロメート処理についてもそのまま存続となった。しかしながら、次回改定（平成28年）には両者とも削除される可能性があるため、関係業界と連携を図りながら、鉛・クロムフリー化への協力体制をとってきました。今後は、化粧鋼板の化成処理、錠前のクロメートフリー処理等まで関係分野に働きかけることも必要になると考えます。

5. 軽量ドア出荷データ集計方法の改善

昨年度から進めてきた、出荷統計集計方法の改善により、用途別の市場規模を把握できるようになり、1年間のデータをとることができました。次年度以降も継続して進めて参ります。

6. 課題

1) 業界発展のための各社協力による基本技術確立

『長期優良住宅』向けドアの開発に向け、基礎技術については、各社の協力制が必要になってきます。本来開発は自由競争ではありますが、業界発展のため、一社の単独商品ではなく、B L商品という看板を借りて複数社で商品を準備でき得る状況を作る必要があります。そのためには、基本技術の開発までは各社の協力をお願いします。

2) 事業計画の管理とスピードUP

今年度の上記事業を進めてきましたが、一部事業は計画通り進みましたが、一部事業はなりゆきで進めてきた感があります。今後、スケジュール管理を行い、スピードを上げ進めていくことが次年度以降の課題となります。

以上